

CA-OPS/MVS® Event Management and Automation

リリースノート

リリース 12.0



このドキュメント(組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」)は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社(以下「CA」)により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複製、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2012 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA Automation Point (CA Automation Point)
- CA ACF2 (CA ACF2)
- CA OPS/MVS® Event Management and Automation (CA OPS/MVS)
- CA Top Secret® (CA Top Secret)

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: 新機能	7
CA OPS/MVS Linux Connector インターフェース.....	7
ExternalSecurity 機能.....	8
第 2 章: 既存機能の拡張	9
SSMGA 機能の拡張.....	10
利用可能な サンプル AOF ルールと OPS/REXX プログラム.....	11
CA 製品に追加されたサンプル	11
CA OPS/MVS に追加されたサンプル.....	12
z/OS アクティビティに追加されたアプリケーション	13
MLWTO 機能の拡張	13
MLWTO イベント処理の拡張機能.....	14
SMP/E インストールの変更.....	14
需要分析要求	15
新規パラメータ.....	15
OPSLOG	15
Linux Connector	16
External Security	19
MLWTO.....	19
マニュアル	20
Security Guide	21
第 3 章: データマイグレーションの情報	23
r11.9 から r12 へのマイグレーション	23
SMP/E インストールの変更	24
OPSLOG WebView サーバへの OPSLOG WebView クライアント接続	25
r12.0 でのサポートの停止	25
r12.0 でのサポートの停止	26
r11.8 から r11.9 へのマイグレーション	26
OPSLOG WebView サーバへの OPSLOG WebView クライアント接続	26
変更されたパラメータ	27

廃止されたパラメータ	28
廃止された変数	28
r11.9 でのサポートの停止	28

付録 A: メッセージ	31
--------------------	-----------

第 1 章：新機能

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA OPS/MVS Linux Connector インターフェース \(P. 7\)](#)

[ExternalSecurity 機能 \(P. 8\)](#)

CA OPS/MVS Linux Connector インターフェース

CA OPS/MVS Linux Connector インターフェース(LXC)は、非送信請求 VM および Linux メッセージを自動化する機能を提供します。これらのメッセージは、同じシステム上で実行される Linux Connector Component 製品によって CA OPS/MVS に転送されます。Linux Connector コンポーネントは、接続されている VM および Linux システムに対するコマンドおよび応答処理も提供します。LXC は、VM および Linux ゲストシステムと直接通信することはありません。

Linux Connector Component スタートアップタスクは、VM および Linux システムにインストールされている通信エージェントをすべて管理します。LXC は、Linux Connector Component によって転送された非送信請求 VM および Linux メッセージを自動化用の Generic API AOF イベントに変換します。付随する OPS/REXX ホストコマンド、ADDRESS LXCON は、LXC の VM および Linux コマンド処理機能を提供します。ADDRESS LXCON によって発行された VM および Linux コマンドはすべて、CA OPS/MVS USS サーバ機能によって Linux Connector Component コマンドサーバに送られます。応答メッセージは USS サーバで収集され、コマンド発行者に返されます。さらに、ADDRESS LXCON LIST コマンドは、Linux Connector Component に接続している VM および Linux システムの名前および属性を返すことができます。ADDRESS LXCON LIST コマンドは、Linux Connector Component によって LXC メッセージインターフェースへ提供されるトポロジデータを使用して、同期的に実行されます。

「CA Mainframe Connector for Linux on System z Installation Guide」には、Linux Connector の共通のコンポーネントのインストールおよび設定に関する情報が記載されています。

ExternalSecurity 機能

CA OPS/MVS External Security 機能によって、ユーザの CA OPS/MVS リソースを管理できます。これは、ご使用のセキュリティ製品に対してリソース セットを定義し、CA OPS/MVS パラメータを設定するだけです。

以下のように External Security 機能を使用します。

- External Security インターフェースを使用して、CA OPS/MVS 内に External Security を実装します。これには、ルール内で SAF コールをコーディングする必要はありません。
- CA ACF2、CA Top Secret または RACF を使用して、事前定義済みの CA OPS/MVS リソースを保護します。新規に提供されたユーティリティ REXX を使用すれば、リソース名およびグループの基本セットを、迅速、簡単に生成できます。
- CA OPS/MVS は標準的な System Authorization Facility (SAF) コールを使用して、CA OPS/MVS リソースへのアクセスを制御します。これには、AOF ルールのコーディングやアセンブラ EXIT の使用は必要ありません。
- OSF サーバ上でコマンドおよび関数を実行しているユーザをチェックします。
- セキュリティのメンテナンスを一元化します。
- この機能の説明およびセットアップに役立つように、新しいマニュアル(「CA OPS/MVS r12.0.00 Security Guide」)が提供されています。

第 2 章：既存機能の拡張

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[SSMGA 機能の拡張](#) (P. 10)

[利用可能な サンプル AOF ルールと OPS/REXX プログラム](#) (P. 11)

[MLWTO 機能の拡張](#) (P. 13)

[SMP/E インストールの変更](#) (P. 14)

[需要分析要求](#) (P. 15)

[新規パラメータ](#) (P. 15)

[マニュアル](#) (P. 20)

SSMGA 機能の拡張

OPSVIEW 4.11.2 Resource エディタ パネルに関して、以下のような機能強化が行われました。

- 編集可能な追加リソース プロパティ Movmode および Schmode。
- 編集可能な新規システム フィールド: Primary (Primary_system)、Current (Current_system)、Desired (Desired_system)。
- SSMGA Alternate System および Group Lists の編集可能なフィールド:
 - Alternate System および Group リスト SSMGA 列の現在のコンテンツを更新します。
 - SYSLST 行フィールドを使用して現在の Alternate System リストおよび SYSGRP 行フィールドを更新して、Group リストを更新します。
- 新規プライマリ コマンド:

EDSYS

ISPF Edit を呼び出して、リソース パネル表示では編集しにくい代替システムを編集します。

EDGRP

ISPF Edit を呼び出して、リソース パネル表示では編集しにくいグループ リストを編集します。

- ユーザ コマンド EXIT が実装されました。

ユーザ コマンド EXIT を使用すると、一部の SSM リソースに対して任意のタイプのエンド ユーザ自動化をトリガできます。ユーザは、プログラムを呼び出し可能な独自の行およびプライマリ コマンドを実装できます。たとえば、SSM Note のような OPS/REXX 検証プログラム、または新規 ISPF アプリケーションを呼び出します。

利用可能な サンプル AOF ルールと OPS/REXX プログラム

CA OPS/MVS は、サンプルの AOF ルールと OPS/REXX プログラムを配布します。これらによって、メインフレーム環境における様々な自動化操作が実行されます。これらのプロシージャはそれが作成およびテストされた特定の環境に準拠しているため、目的とする結果により、サイトが異なれば提供されている自動化を変更できます。

これらのルールおよびプログラムの主な目的は以下のとおりです。

- すべてのデータセンターで必要な自動化技術の概要を示し、デモンストレーションを行います。
- OPS/REXX ホスト環境、OPS/REXX 関数、グローバル変数、ローカル変数など、CA OPS/MVS が提供する自動化ツールの効果的な使用方法を示します。
- サイト固有の自動化を実施する場合に参照情報、テンプレート、または出発点として使用できる、これらのアプリケーションの構文を提供します。

注: CA OPS/MVS で提供されるルールおよびプログラムのサンプルの詳細については、「*CA OPS/MVS User Guide*」の付録を参照してください。

CA 製品に追加されたサンプル

CA 製品に追加されたサンプルは以下のとおりです。

CA IDMS 環境の自動化:

IDMSAREA

収集された DCMT D AREA コマンド出力を呼び出して操作します。LOCK ステータスが任意の領域の 'OFL' にある場合は、アラートメッセージを送信します。

CA DB2 環境の自動化:

DB2LOGDB

DB2 コマンドの出力、特に連続するデータセット内の DIS DB(dbname) コマンドおよびストア出力の出力を収集します。

DB2THRD

DIS THREAD(*) コマンドを呼び出し、トークン数がゼロ以外のすべてのスレッドもキャンセルして、出力を操作します。

CA Process Automation 環境自動化:

PAZ*

CA Process Automation を使用して、Linux 上で実行される、SAP 制御による分散環境への CA OPS/MVS SSM 機能の拡張を示します。これらのサンプルアプリケーションの機能は、アクションテーブルで指定される SSM アクションを使用して呼び出されます。

CA SYSVIEW 環境の自動化:

SYSVINIT

バッチ ジョブ実行またはクロックタイムが、それが実行されているイニシエータクラスに基づいて定義されたランタイムを超えているかどうか決定します。

SYSVMSU

MSU4HAVG しきい値アラート(平均 MSU 使用率)を処理します。警告/問題アラートについては、ACTSUM AVERAGE CA Sysview コマンド出力は SMTP によって取得され、特定の電子メール ID リスト宛てに送信されます。

MSU4HAVG アラートが 'NORMAL' ステータスを返すと、'All OK' 電子メールが生成されます。

CA Workload Automation 環境自動化:

WAEE2OPS

CA Workload Automation EE (CA WAEE) ジョブ モニタリング データを CA OPS/MVS へ転送して、更に自動化処理を行うために使用できるテクニックを示します。実装の詳細については、サンプル メンバ WAEE2OPS を参照してください。

CA OPS/MVS に追加されたサンプル

OPSLOG コンポーネント

OPSLGEXT

OPS/REXX OPSLOG() 機能の使用方法を示します。この機能によって、ジョブ名、asid またはメッセージ ID 別のようなフィルタ条件を使用して、CA OPS/MVS OPSLOG からデータを抽出できます。この種の自動化は、システムで発生する一部の問題があるジョブ名の診断データの収集、およびこうしたデータを担当するサポート チームに転送して、デバッグに協力する場合に有用な場合があります。

SSM コンポーネント

OP4UEXIT

ユーザ コマンド EXIT を使用すると、一部の SSM リソースに対して任意のタイプのエンド ユーザ自動化をトリガできます。ユーザは、プログラムを呼び出し可能な独自の行およびプライマリコマンドを実装できます。たとえば、SSM Note や新規の ISPF アプリケーションなどの OPS/REXX 検証プログラムを呼び出します。

SSMEOJ

STC をモニタする SSMEOM に類似するバッチ ジョブのモニタおよび制御を行うための、エンドユーザ ロジックの SSM への実装を示します。

z/OS アクティビティに追加されたアプリケーション

z/OS アクティビティに追加されたアプリケーションは以下のとおりです。

メッセージ抑制および操作

MLWTO*

MLWTO メッセージの処理に必要な、さまざまなコーディング テクニックを示します。

バッチ ジョブ実行時間のモニタリング

SYSVINIT

バッチ ジョブ実行またはクロック タイムが、それが実行されているイニシエータ クラスに基づいて定義されたランタイムを超えているかどうか決定します。

MLWTO 機能の拡張

機能強化された MLWTO 処理によって、AOF 自動化手順の実行前にすべての MLWTO マイナー メッセージ行をすべて累積するオプションが提供されます。現在の MLWTO 自動化は、変更なく続行されます。ユーザは、特定のメッセージの処理方法を選択します。

MLWTO イベント処理の拡張機能

新しい MLWTO キーワードが MSG ルールのイベント指定子で利用できるようになりました。以下に例を示します。

```
)MSG IEA995I MLWTO.
```

真の MLWTO のイベントを処理する際に、このキーワードによって、MLWTO の終了行の生成後に MSG ルールが実行されます。このキーワードを使用することにより、追加の AOF イベント変数が生成されます。以下に例を示します。

msg.text.0

MLWTO で利用可能な行数を示します。

msg.text.n

個々の行のテキスト。たとえば、msg.text.1 は最初の行で、msg.text.2 は 2 番目の行です。

詳細については、「CA OPS/MVS AOF Rules Guide」の「Message Rules in Coding Each AOF Rule Type」を参照してください。

注: MLWTO イベントを処理する現在の MSG ルールに変更は必要ありません。現在の MSG ルールは変更なく続行され、MLWTO の各行上で実行されます。MLWTO のイベントを処理する新規 MSG ルールの作成時、または MLWTO 処理をサポートする既存のユーザ ロジックが分かりにくく保守が困難になった場合に、新規 MLWTO キーワードを確認します。このように、新規 MLWTO キーワードを使用したルールの書き直しによってユーザ ロジックを簡略化できます。

SMP/E インストールの変更

詳細については、「[移行情報における SMP/E インストールの変更 \(P. 24\)](#)」を参照してください。

需要分析要求

以下の需要分析要求 (DAR) が装備されています。

19719059;01, 20110411;01, 20604072;01

AOF ルールを機能強化して、複数行 WTO をサポートします。

19932524;01

ユーザ コマンド EXIT を使用すると、SSM リソースに対して任意のタイプのエンドユーザ自動化をトリガできます。

19932536;01

SSMGA OPSVIEW 4.11.2 Resource エディタ パネルが機能強化され、追加のグループおよびシステム関連フィールドが含まれるようになりました。

20079223;03

新規オプションによって、CICS Operational Facility (COF) メッセージがデフォルトで OPSLOG に送信されるかどうかを制御されます。

20255113;01

インストールに USS パスと関連付けられるファイル システムの作成が含まれるようになりました。

20365007;01、20614043-01、20733132-01、20825394-01

ブランチ エントリ WTO に MSG.OJOBNAME を使用します。

新規パラメータ

OPSLOG

以下は、OPSLOG の新規パラメータです。

BROWSECOF

OPSLOG に CICS Operational Facility によってインターセプトされるメッセージ イベントを含めるかどうかを制御します。

デフォルト値は YES です。このパラメータは、リリース 11.9 メンテナンスですでに導入されていて、デフォルト値は NO でした。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Parameter Reference」を参照してください。

BROWSECA7

OPSLOG に INITCA7 パラメータが YES に設定されるときに CAIENF によって転送される CA 7 の ENF イベントを含めるかどうかを制御します。

デフォルト値は YES です。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS *Parameter Reference*」を参照してください。

Linux Connector

以下は、Linux Connector の新規パラメータです。

BROWSELXC

BROWSELXC パラメータには LXCON メッセージが含まれます。OPSLOG で CA OPS/MVS に渡される Linux Connector コンポーネント非送信請求メッセージイベントを含めるために、このパラメータを YES に設定します。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS *Parameter Reference*」を参照してください。

DEBUGLXC

DEBUGLXC パラメータは、CA OPS/MVS が Linux Connector インターフェース関連トレースメッセージを生成するかどうかを決定します。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS *Parameter Reference*」を参照してください。

INITLXC

この INITLXC パラメータは、LXCON インターフェースを初期化します。このパラメータは、非送信請求 VM および Linux メッセージの受信、および接続されている VM および Linux システムに対してコマンドを発行するために、CA OPS/MVS が Linux Connector コンポーネントへの接続を試行するかどうかを決定します。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS *Parameter Reference*」を参照してください。

LXCONCMD

LXCONCMD パラメータには z/OS 名/トークン ペア名が含まれています。そのトークン値は、Linux Connector コンポーネントコマンド サーバに接続するために CA OPS/MVS が使用する IP ポート番号です。このパラメータの値は、目的の Linux Connector コンポーネントの CMDTOKEN パラメータに一致する必要があります。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Parameter Reference」を参照してください。

LXCONCOUNT

LXCONCOUNT パラメータは、CA OPS/MVS が受信する Linux Connector のイベント数を保持します。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Parameter Reference」を参照してください。

LXCONCURRENT

LXCONCURRENT パラメータは、CA OPS/MVS が 1 秒間に受信する Linux Connector のイベント数を保持します。1 秒経過するたびに、CA OPS/MVS は LXCONRATE パラメータの値によってこの数を減らします。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Parameter Reference」を参照してください。

LXCONDATE

LXCONDATE パラメータは、CA OPS/MVS が受信した最後の Linux Connector イベントの日付 (yyyy/mm/dd 形式) を表示します。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Parameter Reference」を参照してください。

LXCONHIGH

このパラメータは、Linux Connector インターフェース速度制御メカニズムが、製品の現在のライフ サイクル中に、またはこのパラメータ値が前回リセットされてから後に到達したハイウォーターマークを表示します。この値は、前回のリセット以降 LXCONCURRENT パラメータが到達した最高値です。

LXCONHIGH 値を LXCONMAX パラメータと比較して、LXCONMAX 制限を超過したために、CA OPS/MVS がいつ Linux Connector インターフェースをシャットダウンするかを判断します。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Parameter Reference」を参照してください。

LXCONMAX

このパラメータは、指定された秒数の間に CA OPS/MVS が受信できる LXCON のイベント数を制限します。指定された秒数が経過すると、CA OPS/MVS は Linux Connector インターフェースをシャットダウンします。このパラメータは、Linux Connector インターフェース処理のループによってユーザの自動化がすべて無効になるのを防止するように設計されています。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Parameter Reference」を参照してください。

LXCONMSG

LXCONMSG パラメータには z/OS の名前/トークン ペア名が含まれています。そのトークン値は、Linux Connector コンポーネント非送信請求メッセージサーバに接続するために CA OPS/MVS が使用する IP ポート番号です。このパラメータの値は、目的の Linux Connector コンポーネントの MSGTOKEN パラメータと一致する必要があります。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Parameter Reference」を参照してください。

LXCONRATE

このパラメータは、1 秒あたりに CA OPS/MVS が LXCONCURRENT カウンタの値を減分するレートを設定します。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Parameter Reference」を参照してください。

LXCONTIME

LXCONTIME パラメータは、CA OPS/MVS が受信した最後の Linux Connector イベントの時間を表示します。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Parameter Reference」を参照してください。

LXCRULES

このパラメータは、Linux Connector コンポーネント非送信請求 Linux および VM メッセージ イベントが AOF API ルールによって評価されるかどうかを決定します。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Parameter Reference」を参照してください。

External Security

以下のパラメータは、External Security の新規パラメータです。

DEBUGEXTSEC

DEBUGEXTSEC パラメータによって、CA OPS/MVS External Security チェックをトレースできます。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Security Guide」および「CA OPS/MVS Message Guide」を参照してください。

EXTSECCLASS

ユーザ サイトのリソースクラス名を指定します。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Security Guide」および「CA OPS/MVS Message Guide」を参照してください。

EXTSECPREFIX

CA OPS/MVS が定義したすべてのセキュリティリソース名のプレフィックスを指定します。この値を、ユーザの External Security が使用する、すべてのリソース名の最初のまたは最上位レベルの修飾子として使用します。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Security Guide」および「CA OPS/MVS Message Guide」を参照してください。

EXTSECSHOW

メッセージ OPS2109T によって、OPSLOG にトレースメッセージを送信します。トレースメッセージをオンにする場合は、[ON]を指定します。トレースメッセージは、SAF からのイベント確認情報を表示します。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Security Guide」および「CA OPS/MVS Message Guide」を参照してください。

EXTSECURITY

External Security をオンまたはオフにします。External Security をオンにする場合は、[ON]を指定します。

注: 詳細については、「CA OPS/MVS Security Guide」および「CA OPS/MVS Message Guide」を参照してください。

MLWTO

以下のパラメータは、MLWTO の新規パラメータです。

MLWTOFAILCOUNT

MLWTOFAILCOUNT パラメータは、メッセージが格納されている 6 ビットバッファがフルだったために、MLWTO ルールを実行できなかった回数を示します。

注: 詳細については、「*CA OPS/MVS Parameter Reference*」を参照してください。

MLWTOFAILDATE

MLWTOFAILDATE パラメータは、前回の失敗が発生した日付を示します。MLWTOFAILCOUNT パラメータは、MLWTOFAILDATE パラメータに書き込まれる日付に対して、ゼロより大きな値である必要があります。

注: 詳細については、「*CA OPS/MVS Parameter Reference*」を参照してください。

MLWTOFAILTIME

MLWTOFAILTIME は、MLWTOFAILCOUNT>0 で示される、前回の失敗が発生した時間を示します。

注: 詳細については、「*CA OPS/MVS Parameter Reference*」を参照してください。

MLWTOMAXLINES

MLWTOMAXLINES パラメータは、入力に使用できる最大行を決定します。このパラメータは、OPSSPAxx メンバでオーバーライドできます。

注: 詳細については、「*CA OPS/MVS Parameter Reference*」を参照してください。

MLWTORULEFIRECOUNT

MLWTORULEFIRECOUNT パラメータは、スタートアップ以降 MLWTO に対して実行されたルールの数を示します。

注: 詳細については、「*CA OPS/MVS Parameter Reference*」を参照してください。

マニュアル

このセクションでは、マニュアルの更新について説明します。

Security Guide

ドキュメントセットに「Security Guide」が追加されました。このガイドでは、CA OPS/MVS の External Security 機能の実装に必要な手順について説明します。このガイドは、OPS/MVS セキュリティリソースの定義方法について、すべての External Security 製品 (CA ACF2、CA Top Secret および RACF) の詳細なドキュメントを提供します。

第 3 章: データマイグレーションの情報

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[r11.9 から r12 へのマイグレーション](#) (P. 23)

[r11.8 から r11.9 へのマイグレーション](#) (P. 26)

r11.9 から r12 へのマイグレーション

現在 r11.9 がインストールされていて r12 にアップグレードする場合は、以下のセクションを確認してください。

SMP/E インストールの変更

SMP/E のインストール プロセスが変更されました。主要な変更事項の一部を以下に示します。

- 新規にインストールされた FMID
- 新規にインストールされた SMP/E タイプ
- 新規にインストールされたデータ セット名
- 新規 SAMPJCL インストール ジョブ名
- CA OPS/MVS OPSLOG WebView 機能のインストールによって、zFS が割り当てられ、マウントされます。

詳細については、「CA OPS/MVS インストール ガイド」を参照してください。

重要: このリリースの CA OPS/MVS のインストールに、古いリリースのインストール JCL を使用しないでください。このリリースの CA OPS/MVS を設定または実行するために、古いリリースのサンプルまたは本番 JCL、または PROC を使用しないでください。データ セット名およびジョブ名が変更されました。古い JCL および PROC は、このリリースの CA PS/MVS では正常に動作しません。

重要: REXX プログラムまたは CLIST プロシージャに埋め込み可能な CA OPS/MVS データ セット名に注意してください。以下のデータ セット名を変更します。

以下の新旧 SMP/E ターゲット データ セット名のテーブルは、マイグレーション 処理に役立ちます。

旧 SMP/E ターゲット DSNAME	新 SMP/E ターゲット DSNAME	内容
CAI.ASM	CAI.CCLXASM	アセンブラ ソースおよびマクロ
CAI.FBCLIST	CAI.CCLXCLS0	TSO CLISTs
CAI.CNTL	CAI.CCLXCNTL	サンプル JCL PROC、REXX、データ、スクリプト
CAI.REXX	CAI.CCLXEXEC	OPS/REXX (未コンパイル)
N/A	CAI.CCLXHFS.ZFS	マウントされた zFS

旧 SMP/E ターゲット DSNAME	新 SMP/E ターゲット DSNAME	内容
N/A	/usr/lpp/CAI/CCLXHFS	zFS のマウントポイント; 内容 OPSLOG WebView USS コンポーネント
CAI.LOAD	CAI.CCLXLOAD	実行可能ロードライブラリ (PDS の可能性)。
CAI.OPSM LIB	CAI.CCLXMENU	ISPF メッセージ
CAI.MIBLIB	CAI.CCLXMIB	SNMP MIB
CAI.OPSEXEC	CAI.CCLXOPEX	OPS/REXX (コンパイル済み)
CAI.OPSP LIB	CAI.CCLXPENU	ISPF パネル
CAI.USSLOAD	CAI.CCLXPLD	実行可能ロードライブラリ (PDS/E である必要があります)。
CAI.BASE.RULES	CAI.CCLXRULB	BASE AOF ルール
CAI.STATEMAN.RULES	CAI.CCLXRULM	STATEMAN AOF ルール
CAI.SAMPLE.RULES	CAI.CCLXRULS	SAMPLE AOF ルール
CAI.SAMPLE.REXX	CAI.CCLXSAMP	サンプル REXX
CAI.OPSSLIB	CAI.CCLXSENU	ISPF スケルトン
N/A	CAI.CCLXSIDE	LE サイドデッキファイル
CAI.OPSTLIB	CAI.CCLXTENU	ISPF テーブル
CAI.CCLXXML	CAI.CCLXXML	MSM/SDS および MSM/SCS XML メタデータ

OPSLOG WebView サーバへの OPSLOG WebView クライアント接続

r12 では、OPSLOG WebView クライアントは、r11.8、r11.9 および現行の r12 の OPSLOG WebView サーバ接続をサポートします。

r12.0 でのサポートの停止

このセクションでは、このリリースで停止されるサポートについてお知らせします。

WLM エンクレーブのサポート

この機能は、z/OS Work Load Management (WLM) 依存エンクレーブを使用して、ルールスループット時間およびプロセスブロックの可用性の改善を試行します。この機能は、自動化イベントを生成するタスクのディスパッチ優先度を一時的に上げます。短期のエンクレーブ使用は利点が少なく、予期しない副作用が発生しやすいことが分かりました。従って、WLM エンクレーブ機能はこのリリースではオフに設定されています。制御するパラメータ、INITWME および DEBUGWME はもう使用されなくなっていて、次のリリースで削除される予定です。

r12.0 でのサポートの停止

次のリリースで、以下のパラメータが廃止されます。

INITWME

このパラメータは、WLM 依存エンクレーブ機能が自動化イベントに対してアクティブかどうかを決定します。このパラメータを設定するすべての試行は無視されます。

DEBUGWME

このパラメータは、WLM 依存エンクレーブ処理の診断メッセージをオンにします。このパラメータを設定するすべての試行は無視されます。

r11.8 から r11.9 へのマイグレーション

現在 r11.8 がインストールされていて r11.9 にアップグレードする場合は、以下のセクションを確認してください。

OPSLOG WebView サーバへの OPSLOG WebView クライアント接続

r11.9 では、OPSLOG WebView クライアントは、r11.8 および現行の r12 の OPSLOG WebView サーバ接続をサポートします。

変更されたパラメータ

r11.9 で以下のパラメータに変更がありました。

以下のパラメータのコマンドキュー エントリが、64 ビット ストレージに移動されました。

- **OSFQUE**

新しいデフォルト: 1700

キューに入るコマンド数を表す OSFQUE のデフォルト値が、1024 から 1700 に増えました。新しい値は、64 ビット ストレージを使用します。

- **OSFTSLQUE**

新しいデフォルト: 1700

キューに入るコマンド数を表す OSFQUE のデフォルト値が、1024 から 1700 に増えました。新しい値は、64 ビット ストレージを使用します。

- **OSFTSPQUE**

新しいデフォルト: 1700

キューに入るコマンド数を表す OSFQUE のデフォルト値が、1024 から 1700 に増えました。新しい値は、64 ビット ストレージを使用します。

- **USSQUE**

新しいデフォルト: 1700

キューに入るコマンド数を表す OSFQUE のデフォルト値が、128 から 1700 に増えました。新しい値は、64 ビット ストレージを使用します。

廃止されたパラメータ

r11.9 で以下のパラメータが削除されました。

BYPASSINITEOM

このパラメータによって、JES イニシエータの EOM ルール処理が阻止されましたが、プロセスブロックの割り当ては阻止されませんでした。このパラメータの本来の目的は、プロセスブロックがなくなるのを阻止することにあります。

INITHCS

INITICS は、CA OPS/MVS が本製品用に IBM Health Checker をインストールし有効にするかどうかの決定に使用されました。z/OS Health Checker は、現在では CA OPS/MVS スタートアップに自動的にインストールされるようになりました。ヘルスチェックを実行している他の CA 製品との整合性を保持するために、このパラメータベースの機能を削除して、一時的または恒久的にヘルスチェックを削除しました。IBM Health Checker インフラストラクチャは、このパラメータベースの機能を提供します。HZSPRMxx PARMLIB メンバを使用するか、Health Checker スターティッドタスクに対して変更コマンドを発行することによる個別のまたはすべての製品チェックに対して、IBM パラメータベースの機能を使用します。

注: (デフォルト)では IBM Health Checker はインストールされ、有効になっていました。

OCMAXTIME

このパラメータは、コマンド 応答収集のためにコマンド コンソールを割り当てることができる最大時間を制御しました。指定した値によって、OPSCMD またはアドレス OPER の指定またはデフォルトの CMDWAIT/WAIT オペランドとの競合が発生する可能性があります。

廃止された変数

r11.9.1 で以下の変数が削除されました。

- SEC.OPAURQTY

r11.9 でのサポートの停止

このセクションでは、このリリースでのサポートの廃止についてお知らせします。

リソース テーブル列の SSM アクション

CA OPS/MVS r11.8 のドキュメントで、リソース テーブル カラムでの SSM アクションのサポートは r11.9 で廃止されることをお知らせしています。

リソース テーブル列の System State Manager (SSM) アクションの廃止

アクション テーブルの代わりにリソース テーブル カラムに直接 SSM アクションを指定する機能は、CA OPS/MVS r11.9 で廃止されています。アクション テーブル内の同じステートの組み合わせに対して全般またはリソース固有のアクションを定義することで、この機能を置換します。リソース固有のカラム データの変数置換により、開始および終了コマンドのような全般アクションを更に修飾します。リソース ステート一致アクション列のリソース列名が検索されないように、SSM エンジンアクション処理アルゴリズムが修正されています。リソース テーブルに関連付けられているアクション テーブルでのみ、アクションが検索されます。

[CA サポート](#)にお問い合わせください。サポートが必要な場合は、この機能に必要な変更を行います。

付録 A: メッセージ

このセクションでは、リリース 12 の新しいメッセージおよび変更されたメッセージについて説明します。

注: 各メッセージの詳細については、「Message Reference」を参照してください。

OPS3919E

No valid rule header found in rule var1 (var2)

変更可能: はい

原因:

CA OPS/MVS AOF ルール マネージャは、現行ルール内で有効なルール ヘッダが見つかりませんでした。

処置:

現行のルールコードで、有効なルール ヘッダを確認します。正しいヘッダ用のコーディングを確認します。ルール ヘッダで、ワイルドカード文字指定が適切に使用されているか確認します。ワイルドカード文字は、MLWTO ルール仕様では使用できません。ルール ヘッダを修正し、再度ルールを有効にします。

ルール ヘッダのコーディングの詳細については、「CA OPS/MVS AOF Rules User Guide」を参照してください

メッセージ テキストの可変フィールドを以下に示します。

var1

ルール名文字列

var2

エラー テキスト

var3

呼び出し元プログラム行番号

var4

呼び出されたルーチン名

OPS2109T

*CKSAF: <userid> <class> <prefix>.<rname>[.<ext>] <access> RC=<SAF rc>
REASON:<reason>

原因:

このメッセージが OPSLOG に表示されるのは、EXTSECSHOW がオンに設定される場合のみです。

メッセージテキストの可変フィールドを以下に示します。

userid

SAF リソース チェックが使用するユーザ ID を指定します。

class

SAF リソース クラス(デフォルトまたは EXTSECCLASS 設定パラメータ)を指定します。

prefix

リソース名の SAF リソース プレフィクスまたは第 1 レベルの修飾子を指定します(デフォルトまたは EXTSECCLASS 設定パラメータ)。

rname

セキュリティイベントを表す CA OPS/MVS によって内部的に定義された名前を指定します。

ext

(オプション)リソースクラスの追加の修飾子を指定します。その存在とコンテンツは、リソース名に依存します。

access

リソースへのアクセスをリクエストします。有効な値は READ または UPDATE のいずれかです。

rc

SAF コールからのリターンコードを指定します。

reason

SAF コールからの理由コードをテキストに変換します。

注: プレフィクス、名前、およびオプションでピリオド(.)と共に末尾に追加される EXIT は、SAF コールが CA OPS/MVS から確認する完全リソース名を識別します。

処置:

アクションは必要ではありません。これは情報メッセージです。このメッセージは、分析および診断のみを目的としています。